

[基調講演 II]

「新たな旅程ーポスト・共産主義のポーランドにおけるポーランドのユダヤ人歴史博物館の成り立ち」

バーバラ・キルシェンブラット-ギンブレット (ニューヨーク大学教授)

ホロコーストによって、ヨーロッパに数多くあった、大きく活気に満ちたユダヤ人コミュニティが壊滅して60年、増殖したのは記憶の所在地である。ホロコースト関連の記念碑、史跡、博物館が、ヨーロッパのユダヤ人に起きたことに関心のある人々の旅の目的地であり続ける中、ユダヤ人博物館は、ホロコースト以前の（そしてある意味ではホロコースト以降の）ユダヤ人の歴史を伝える上で重要な役割を果たしている。近年、特に共産主義の崩壊とともに、いくつかの新しいユダヤ人博物館（中にはとても野心的なものがある）が開館、あるいは計画されており、古い博物館も改修、増築されている。それらの中には、都市景観の象徴、良心の所在地、追悼旅行や歴史遺産を訪ねる旅の目的地となっているものもある。

ユダヤ人博物館や史跡にとっての基本的ジレンマは、一方で、今日のヨーロッパにあるユダヤ人コミュニティとの関係であり、他方で、米国やイスラエルなどから訪れるユダヤ人ツーリストが抱く、ホロコーストの現場への圧倒的な関心—何千人ものユダヤ人の若者をポーランドのホロコースト跡地へと向かわせる「生者の行進」の絶大な人気とあきらかな成功について述べるだけでもわかる—との関係である。ホロコーストの記念碑や博物館が次々と建てられる中、亡くなった人々や、その人たちがどのように亡くなったかを記憶に留めるだけでなく、亡くなった人々がどのように生きたか、また、その人たちが創った文明に注目することで、ユダヤ人たちの記憶を大切にしようという努力がなされている。ベルリンのユダヤ人博物館と、2011年にワルシャワに開館予定のポーランドのユダヤ人歴史博物館は、近年における最も野心的な例に含まれる。

ポーランドのユダヤ人の90%がホロコーストで命を奪われ、ヨーロッパのユダヤ人の大部分がポーランドの地で死んだ。今日ポーランドを訪れるユダヤ人の旅程が、一般にショーアー関連の場所に限定されているのは、驚くには値しない。変化を続ける現在に至る、ポーランドにおける千年のユダヤ人文明を伝えることを使命とする「ポーランドのユダヤ人歴史博物館」は、それに代わるオルタナティブな旅程を提示する。つまり、入館者をポーランドの近代初期における「<sup>マルチ・カルチュラル</sup>多文化」な遺産と言われてきたものに導くことである。ポー

ランドのユダヤ人歴史博物館は、入館者をどこへ連れて行き、またどのような出会いを生み出すのか。この博物館は今日のワルシャワ市にどのような影響を及ぼすのか。本講演は、ワルシャワのゲットー跡、ワルシャワの歴史的なユダヤ人地区に、「新しいポーランド」の入り口、フォーラム、触媒となることを目指すマルチメディアな歴史博物館を建設する挑戦を探る。